

武漢事務所便り週間新聞記事報告

2010年3月21日付け「長江ネット」より

うららかな春の陽気に誘われて

広東省の観光客、貸切高速鉄道列車に乗って武漢市でお花見

東湖風景旅行管理区聴涛閣によれば、約一カ月の準備期間を要した今回の貸切高速鉄道列車の旅は、主に広州や仏山などの地域からの観光客が利用した。ちょうど武漢の桜の時期と重なったため、広東省内の旅行社が高速鉄道列車チケット購入「20名様につき1名無料」というキャンペーンを打ち出したところ、以前から武漢の桜を見たかった広東省の観光客が殺到した。観光客のうち半数は1泊2日の武漢旅行を希望し、武漢大学でお花見をしたり、黄鶴楼や東湖などの観光地を訪れたりして楽しんだ。残りの観光客らは2泊3日のコース(武当山を含むコース)を希望した。

広東から大勢の観光客が訪れたことにより、武漢市の旅行社は大変忙しくなった。ある旅行社のスタッフは、今回の桜まつりのピーク期には毎日平均して100名近くの旅行団を受け入れたそうである。

また当地の旅行社のスタッフの情報によれば、「これまで武漢市の旅行社が旅行団を組んで、現地での受け入れ業務を行うことは少なかったが、高速鉄道列車の開通に伴いこの状況も変わりつつある。春節の期間中に武漢市の各旅行会社が受け入れた観光客の数は、今年初めて、武漢市から送り出した観光客の数を上回った。武漢市を訪れた高速鉄道を利用した旅行団は7日間で200団体を超え、観光客全体の半数以上を占めた。一方、ますます増える広東からの観光客の需要に、武漢市の観光バス、ホテル及びガイドが対応しきれなくなっているという現状もある。



花見の様子

2010年3月26日付け「長江ネット」より

GPS導入により無人管理を実現

武漢市のレンタサイクル、コンピューター化

武漢市のレンタサイクルの利用者数がますます増加していることを受け、どうすれば自転車のレンタルをもっと便利にさせられるかということが問題になっている。鑫飛達会社は武漢弘博軟創情報技術有限会社と協力し、近日中にもレンタサイクルの情報管理システムを構築する見込みだ。

弘博会社の技術管理を担当している舒治国氏によれば、コンピューター管理システムの情報技術を用いて、コンピューター管理による自転車の貸し出し、返却などを実現させる。具体的にはGPS技術により、貸し出した自転車の位置を特定するなど、レンタサイクルのターミナルの無人管理を実現するためにコンピューター端末を設置することとしている。

レンタサイクルプログラムは、武漢市の「両型社会づくりー省エネ・エコフレンドリー」の重点事項だ。2010年までに500か所のレンタサイクルターミナルが新設され、レンタル可能な自転車は5万台に達する見込みである。